

修学旅行で学んだこと

6月4日(火)～6日(木)3年生は広島・神戸・大阪方面へ出かけることができました。この修学旅行では、世界遺産を訪れたり、平和学習や防災学習をしたり、USJで仲間との絆を深めたり内容の濃い3日間となりました。今回の「塩中だより」では、それらの中から私たちが学んできたことを紹介します。

広島平和記念公園にて被爆ピアノで合唱しました

1日目の夕刻、お好み村で広島焼きをいただいた後、平和を祈念するセレモニーを行うために平和記念公園内へ移動しました。会場は昨年度の会場と同じ、対岸に原爆ドームを臨む元安川のほとりで、被爆ピアノはもちろん集音マイクやスピーカーなどの立派な音響設備が準備されていました。

被爆ピアノとは、原爆投下時、爆心地より3km以内で被爆したにもかかわらず現存しているピアノのことで、今年もお世話になった矢川ピアノ工房さんには6台残っているらしく、2001年から全国各地へ平和の音色を届けています。偶然今月四日市の第一楽器さんにも来てくれるそうです。矢川さんは、「今年も『ヒロシマの有る国で』を合唱してくれて、大変うれしいです。」とってくださいました。



被爆体験を聞きました

2日目の朝、広島平和記念資料館で原爆の脅威について学習した後、大田金次さんの被爆体験を聞きました。大田さんは、爆心地からわずか900mのところまで被爆して奇跡的に生き残ったいわゆる被爆孤児です。今でも、何とか生き残った人の悲惨な姿や遺体を焼いているときのおいの記憶が鮮明に残っているとおっしゃっていました。

戦争を知らない私たちには想像もできない地獄を見てきた大田さんが私たちに強く訴えていたことは、「核兵器の廃絶に向けて、これからも原爆の話をも風化させないでほしい。」ということでした。



神戸で防災学習をしました

2日目の午後、新幹線で神戸に移動した私たちは、人と防災未来センターを見学しました。1995年に起きた阪神・淡路大震災の経験と教訓を後世に伝え、これからの備えを学ぶ災害ミュージアムです。

今年は当時地元の市役所の職員として復旧に携わってみえた谷川さんからお話を聞くことができました。災害時、とにかくトイレや水の確保に苦労したことや、懐中電灯や携帯ラジオ、水をためておく容器などが役に立つというお話が印象的でした。特に、当時がれきの下から助け出された人の8割が隣近所の人々の力によるものだったということで、今塩浜中で取り組んでいる環境学習や防災・減災の学習が、もしもの場合、自分のため家族のため地域のために必要な力につながるのだと改めて確認することができました。



今回の修学旅行で学んだ平和学習や防災学習をはじめ、ふだん学校の道德の授業などで勉強する差別事象や人権問題を振り返ると、結局どれも行きつくところは、「(自分も含め)人の命を大切にする」ということではないでしょうか。